中間報告における基本目標と基本政策の関係図

計画における現状認識

- 社会経済環境の変化の認識と的確な対応
- 分権の時代における市民と行政の役割
- 川崎の足跡とこれからの歩み

まちづくりの基本目標

- 川崎の特徴や長所を活かし、持続型社会の実現に貢献する
- 協働と協調をもとに、いきいきとすこやかに暮らせるまちをつくる
- 自治と分権を進め、愛着と誇りを共有できるまちをつくる

政策に反映すべき基本的視点

新たな時代にふさわしい価値観の創造と先駆的な取組を進める

地球社会の構成員として川崎が主体的で責任ある活動を進めるとともに、持続型社会の中でいきいきと暮らすためのよりどころとなる施策を展開する

首都圏の好位置にある川崎としての個性を活かす

首都圏の好位置にある川崎のポテンシャルや幅広い地域資源を活かしながら、広域的・総合的な視点に基づく施策を展開する

相互信頼に基づき自立と自己決定を尊重する

市民と行政との相互信頼に基づいてパートナーシップを構築するとともに、自立と自己決定を尊重しながら、それぞれの役割を適切に担う施策を展開する

市民が実感できる効果的な政策を経営的視点に立って創造する

市民が効果を実感できるように、多様な事業主体や手法を適切に選択しながら、きめ細やかな施策を展開する

１．安全で快適に暮らすまちづくり　における課題の抽出

①身近な都市機能の充実
・駐車場問題の解消（安全なまち）
・人のためのまちづくり
（安全に快適に歩ける道、ふれあいの起こる道、遊べる道ほか）
・都市の機能の充実とともに生活機能の拡充を
・都市、まちの成立ちを踏まえ生活中心の発想に転換

②自転車との共生の取り組み
・自動車社会を見直した自転車のまちづくり
・迷惑駐車の対策充実、安心して安全に歩きたい
・不法駐輪の廃止、マナー
・自転車をコミュニティの足にできる通り道を作る
・自転車専用道路　　・自転車のルールの徹底
・駐輪場に整備の人員を

③地域生活基盤
・コミュニティの喪失
・市バスはもっと小さくできないか
・市バス、各運行バスの統合はできないか
・通過交通対策に川崎市はどのように取組んでいるのか（ＮＯx削減）
・生活道路の位置づけを明確にしてほしい
・川崎の住環境改善（自転車社会への転換）

④良好な住環境の維持、改善
・まちづくりにおける子ども・子育ての視点の不足
・安全で安心できる住環境の維持（マンション建設で地盤沈下）
・まちの賑わいは人の居心地を満たすうえで不可欠（商店街再建）
・一定地域（コミュニティの範囲）で生活が充足する施設・設備の整備計画は実行されている（鹿島田西地区）
・マンションの建替え時期が迫るのでネットワーク化が必要

⑤消費生活の安全
・輸入食品の安全点検
・消費生活センターのもっと広範囲に知らせるべき
・食の安全に対する行政の取り組み

⑥上水道

⑦下水道

⑧消防、救急
・お祭りなどの警備を自警団で（シニアシェリフ、ボーイスカウトほか）
・消防、救急：道路事業

⑨危機管理、災害対策
・袋小路の整備・解消（安全・防災面から）
・生活道路の確保はどう進められているのか（防火）
・ある地域（コミュニティ単位）警察と連携した防災システムはできないか
・災害時の多言語対応　　・防犯を市としてどう取組んでいるのか
・地域防災に集合住宅の参加を　　・集合住宅の自治会への参加を

基本政策の実現に向けて

- **新たな時代を切り拓く川崎再生に向けた行財政システムの再構築**
- **地域経営、自治体経営の観点からの取組**

中間報告における基本目標と基本政策の関係図

計画における現状認識

- 社会経済環境の変化の認識と的確な対応
- 分権の時代における市民と行政の役割
- 川崎の足跡とこれからの歩み

まちづくりの基本目標

- 川崎の特徴や長所を活かし、持続型社会の実現に貢献する
- 協働と協調をもとに、いきいきとすこやかに暮らせるまちをつくる
- 自治と分権を進め、愛着と誇りを共有できるまちをつくる

政策に反映すべき基本的視点

新たな時代にふさわしい価値観の創造と先駆的な取組を進める

地球社会の構成員として川崎が主体的で責任ある活動を進めるとともに、持続型社会の中でいきいきと暮らすためのよりどころとなる施策を展開する

首都圏の好位置にある川崎としての個性を活かす

首都圏の好位置にある川崎のポテンシャルや幅広い地域資源を活かしながら、広域的・総合的な視点に基づく施策を展開する

相互信頼に基づき自立と自己決定を尊重する

市民と行政との相互信頼に基づいてパートナーシップを構築するとともに、自立と自己決定を尊重しながら、それぞれの役割を適切に担う施策を展開する

市民が実感できる効果的な政策を経営的視点に立って創造する

市民が効果を実感できるように、多様な事業主体や手法を適切に選択しながら、きめ細やかな施策を展開する

２．幸せな暮らしを共に支えるまちづくり　における課題の抽出

①共助社会を支える地域福祉の充実
・社会福祉協議会のあり方（行政がうまく使ってきた）
・共助の考え方が未整理　　・地域福祉社会
・人間に基盤となるモノの整備（幸せを感じるベースづくり）
・高齢者の就業への規制の解除（実力での採用）

②地域を支える市民活動の推進
・地域福祉への支援　　・中間法人の組織化、ＮＰＯ法人
・ＮＰＯと連携していくためにどの様な手だてが有るか
・区民生活支援センターを各区に作る。また支援のための助成金を充実する
・個人主義の浸透と地域活動のギャップ

③高齢者パワーの活用
・商助の導入　　・規制改革　　・市民パワー
・シニアの特技・知識・体験を地域の教育力向上につなげる
・川崎都民を川崎市民に移行・シフトする仕組みづくり

④介護予防の推進
・介護保険と介護予防

⑤障害者福祉
・精神障害者問題が取組不足
・身体障害者福祉サービスのあり方が過剰（過不足と質）
・バリアフリーからダウンモビリティ
・社会サービスの構築　　・権利条例（高齢、障害をわける）

⑥生活保護

⑦ホームレスの自立支援
・多摩川のホームレスへの移転と自立支援を

⑧健康づくり

⑨医療　等
・地域医療の充実

その他
・子ども福祉の項目が無い
・子ども弱者への手当て・対策の不足
・子ども・子育てへの手当ての不足
・子ども関連施設の人材養成と確保の不足
・組織に属していない子どもへの不平等
・幸せ具合を自分で決められること
・お仕着せ、出来合いではなく本当に必要なケアを自分で決めること

基本政策の実現に向けて

- **新たな時代を切り拓く川崎再生に向けた行財政システムの再構築**
- **地域経営、自治体経営の観点からの取組**

中間報告における基本目標と基本政策の関係図

計画における現状認識

- 社会経済環境の変化の認識と的確な対応
- 分権の時代における市民と行政の役割
- 川崎の足跡とこれからの歩み

まちづくりの基本目標

- 川崎の特徴や長所を活かし、持続型社会の実現に貢献する
- 協働と協調をもとに、いきいきとすこやかに暮らせるまちをつくる
- 自治と分権を進め、愛着と誇りを共有できるまちをつくる

政策に反映すべき基本的視点

新たな時代にふさわしい価値観の創造と先駆的な取組を進める

地球社会の構成員として川崎が主体的で責任ある活動を進めるとともに、持続型社会の中でいきいきと暮らすためのよりどころとなる施策を展開する

首都圏の好位置にある川崎としての個性を活かす

首都圏の好位置にある川崎のポテンシャルや幅広い地域資源を活かしながら、広域的・総合的な視点に基づく施策を展開する

相互信頼に基づき自立と自己決定を尊重する

市民と行政との相互信頼に基づいてパートナーシップを構築するとともに、自立と自己決定を尊重しながら、それぞれの役割を適切に担う施策を展開する

市民が実感できる効果的な政策を経営的視点に立って創造する

市民が効果を実感できるように、多様な事業主体や手法を適切に選択しながら、きめ細やかな施策を展開する

３．人を育て心を育むまちづくり　における課題の抽出

①確かな学力の育成
・教育委員会の改革はどうなっているのか
・市に教育の（人数など）決定権を
・学校間格差による学力の差（特に公立小・中・高のランク）

②地域に根ざし、開かれた、特色ある学校づくり
・良き仕事人になるための教育（キャリア教育などという狭い枠組みでなく産業の町川崎にふさわしい特化した教育を。川崎の子どもはフリーターにならない）
・学校教育の場で地域の経験者や技術者が特別授業をできるようにすること
・学校への市民参画計画はあるか

③学校施設の有効活用
・虹ヶ丘コミュニティルームの全市的展開を

④学校の適正規模、適正配置
・地域教育会議
・少人数学級への具体的な取り組みは如何に
・ドーナツ化現象による小学校の児童数減少による適正人数

⑤地域課題解決のための障害学習のしくみづくり
・市民が市民に教えあう生涯学習の仕組みづくり
・社会教育・生涯教育によるまちづくりを
・地域社会で子どもも大人も自分育ての場を
・学習課題は的確に決められているか
・市民館事業は陳腐化していないか

⑥総合的な子育て支援
・子ども間の世代の分断
・自由に遊ぶことができる遊び場の不足
・子育てグループの情報がもっと市政だよりなどの広報に取り上げられること
・０歳からの生涯教育

⑦人権
・子ども人権条例はあるけれど教育の場でそれを教えているか
・精神障害の病歴のある人が社会適応できるために対策を

⑧男女共同

⑨多文化共生
・外国人市民を地域に導入するための総合的教育が必要
・世代間異文化交流の不足

⑩平和　等
・戦争に絶対ＮＯという。戦争産業購買しない。軍艦入港させない。戦争を伝える教育

その他
・子育て世代等の学習機会の不足

基本政策の実現に向けて

- **新たな時代を切り拓く川崎再生に向けた行財政システムの再構築**
- **地域経営、自治体経営の観点からの取組**

中間報告における基本目標と基本政策の関係図

計画における現状認識

- 社会経済環境の変化の認識と的確な対応
- 分権の時代における市民と行政の役割
- 川崎の足跡とこれからの歩み

まちづくりの基本目標

- 川崎の特徴や長所を活かし、持続型社会の実現に貢献する
- 協働と協調をもとに、いきいきとすこやかに暮らせるまちをつくる
- 自治と分権を進め、愛着と誇りを共有できるまちをつくる

政策に反映すべき基本的視点

新たな時代にふさわしい価値観の創造と先駆的な取組を進める

地球社会の構成員として川崎が主体的で責任ある活動を進めるとともに、持続型社会の中でいきいきと暮らすためのよりどころとなる施策を展開する

首都圏の好位置にある川崎としての個性を活かす

首都圏の好位置にある川崎のポテンシャルや幅広い地域資源を活かしながら、広域的・総合的な視点に基づく施策を展開する

相互信頼に基づき自立と自己決定を尊重する

市民と行政との相互信頼に基づいてパートナーシップを構築するとともに、自立と自己決定を尊重しながら、それぞれの役割を適切に担う施策を展開する

市民が実感できる効果的な政策を経営的視点に立って創造する

市民が効果を実感できるように、多様な事業主体や手法を適切に選択しながら、きめ細やかな施策を展開する

４．環境を守り自然と調和したまちづくり　における課題の抽出

①地球環境に配慮した取組（地球温暖化防止等）
・ＣＯ２削減について、川崎市の数値目標を明確に打ち出す
・交通－通過交通減少（圏央道の早期完成を促進）
・バス－コミュニティバス促進（小型バスの運行を増やさせて自家用車を減少させる）
・レンタカーの促進（気軽にレンタカーして自家用車を減少させる）
・都市計画→古い建築物を壊してビルにしてしまうことが温暖化へ拍車をかけている

②廃棄物減量、リサイクル
・ゴミを資源と捉え、品質の高い分別収集を！
・分別収集　ゴミを分けて出す市民意識をともに育てる
・人＋物＝廃棄物　人が減少化傾向　物を使わない工夫、出さない工夫
・ゴミの削減（回収を隔日にする　月・水・金）
・ゴミを根本的に減らす方法を考える
　ア）ゴミぶくろの有料化　イ）包装の制限　ウ）使い捨て用品の制限
・分別　　・企業の回収への協力

③資源循環
・市民間のリサイクルを進めるフリーマーケットの推進
・たべものを分別して肥料化にする⇒リサイクル

④産業分野における環境貢献の推進
・企業の環境ボランティアの義務付け
・環境への配慮を数値として示し、世界に誇れる優良企業の存在をアピールする方法を考える
・事業系ゴミを市内で処理を！！　　・環境と福祉立地（脱産業立地）
・環境（子ども中心　環境教育）　・エコ企業を顕彰し、貢献度を高める

⑤緑の保全、創出、育成
・原っぱの確保（子どもの遊び場、自然体験の場）
・緑被率を市全体で３０％にする（「２０１０プラン」の「緑の３０プラン」への継続発展を図るための政策が必要）
・緑地保全地域の拡大　　・地区計画のすすめ　　・市街化調整区域の見直し
・ビルの屋上緑化を進める　　・街路樹を増やす
・緑化の専門家の育成（ガーデニング学校の誘致）
・緑　北部＝緑トラスト　南部＝緑創出（野球場、競輪場を中心に）
・ＮＰＯが緑化、自然保全、景観づくりに関われる仕組みをつくろう
・緑の質の向上を図ろう

⑥都市農地の保全と市民が農に親しむしくみづくり
・相続税によって山林・農地が消えていく（川崎独自の税対策がほしい）
・都市農業を産業政策の中に組み込む（川崎の農業政策がほしい）
・都市農業（市民農園など、高齢者いきがいの創造）
・里山の活用（市民参加、市民農園）

⑦多摩川や臨海部を活かした水と親しむ取組　等
・多摩川の全行程を徒歩で移動できるようなアクセス散策路の整備
・臨海部の復活、海の公園の整備（東扇島は不便）

基本政策の実現に向けて

- **新たな時代を切り拓く川崎再生に向けた行財政システムの再構築**
- **地域経営、自治体経営の観点からの取組**

中間報告における基本目標と基本政策の関係図

計画における現状認識

- 社会経済環境の変化の認識と的確な対応
- 分権の時代における市民と行政の役割
- 川崎の足跡とこれからの歩み

まちづくりの基本目標

- 川崎の特徴や長所を活かし、持続型社会の実現に貢献する
- 協働と協調をもとに、いきいきとすこやかに暮らせるまちをつくる
- 自治と分権を進め、愛着と誇りを共有できるまちをつくる

政策に反映すべき基本的視点

新たな時代にふさわしい価値観の創造と先駆的な取組を進める

地球社会の構成員として川崎が主体的で責任ある活動を進めるとともに、持続型社会の中でいきいきと暮らすためのよりどころとなる施策を展開する

首都圏の好位置にある川崎としての個性を活かす

首都圏の好位置にある川崎のポテンシャルや幅広い地域資源を活かしながら、広域的・総合的な視点に基づく施策を展開する

相互信頼に基づき自立と自己決定を尊重する

市民と行政との相互信頼に基づいてパートナーシップを構築するとともに、自立と自己決定を尊重しながら、それぞれの役割を適切に担う施策を展開する

市民が実感できる効果的な政策を経営的視点に立って創造する

市民が効果を実感できるように、多様な事業主体や手法を適切に選択しながら、きめ細やかな施策を展開する

５．活力にあふれ躍動するまちづくり　における課題の抽出

①ものづくり機能の発展
・古くからある町工場を生かして、結集するにはどうすればいいのか
・企業倫理がすぐれて活力あふれる経済こそが持続するが、今は野放し
・匠の育成（マイスター制度の充実）－機械から手づくりの伝承へ－

②新産業創出
・教育と連携した福祉サービスの産業起し　・福祉サービス分野での産業おこし
・産業人材の育成　－学校づくり－　・若者の仕事の創出
・国際化の施策を考える　視点として、来日外国人との「生活」（共生）を含め経済活性化を考えること　・脱観光立地　・脱工業立地　・脱専有思想　・福祉産業

③環境関連技術、生活文化産業の振興

④コミュニティビジネス
・６０歳代の就労に関し、地域の中で地域の事業をつくりだす（駐輪場整備員など）
・地域活動を行っている地域の育成等　・コミュニティビジネスの立上げ支援
・ＮＰＯ型起業　・地域通貨　・生活中心主義ＮＰＯ

⑤商店街を活かしたまちづくり
・シャッター街となった場所に空店舗を利用したチャレンジ・ショップ（若者達の新しい商業展開）を進める
・商店街の活性化へ向けて、シャッター通りの空店舗利用事業の促進
・対面販売店の拡大　・空き店のＮＰＯ利用　・空店舗活用（老人クラブ、街角美術館）

⑥国際的な物流拠点の整備

⑦国際化される羽田空港の活用
・羽田への道を確保できる現状にある川崎は、それをどう活かしていくのか
・羽田空港の重要度が増している中で臨海部の新たな役割が浮上、こういう国の政策に対応する川崎の自主的プランは？
　・国策に引きずられて基盤整備（広域道路・橋梁建設など）優先は、過剰投資を招く恐れあり

⑧広域的な調和性を踏まえた拠点づくり

⑨広域ネットワークを重視した交通基盤
・都市計画道路の見直し
・南武線増便、急行新設
・川崎市背骨の道路（尻手黒川線、府中街道）の整備
・交通手段革命（トロリーバス復活）
・市内発着トリップが６０分以内で行われるように都市交通を計画しよう

⑩人を惹きつける魅力的な駅周辺再開発
・駅前に人が入れない歩行者天国を
・駅前広場中心の再開発（人が集まれる場づくり）
・川崎ならではの駅づくり（全国同じ駅前テナントショップからの脱却）
・南武線改革の第一歩、ネーミングを変える

⑪臨海部再生整備　等
・臨海部が孤立している（「タテ」方向の交通、運河と多摩川が連動するスロートランスポーテーションを！）
・既に中央防災会議報告にある、近く発生が予測される東海・東南海大地震による「長周期振動」による石油コンビナートの被害指摘、また県の委託調査で指摘された水江（島）の脆弱性など、臨海部の地震対応がリエゾン研究会で無視されている　・国への対応要請
・臨海部は川崎の工業拠点、そして労働者の働く場所として元気であるように自治体としてやるべきことは？　①まず、現存する企業活動を持続させ、勤労者の働く場所を維持させる　②人間らしい労働を実現させる　③新産業として中小企業を育成させる拠点づくり　④産業の内容が平和と環境に向き合ったものにする

その他全般　・共生社会の創造

基本政策の実現に向けて

- **新たな時代を切り拓く川崎再生に向けた行財政システムの再構築**
- **地域経営、自治体経営の観点からの取組**

中間報告における基本目標と基本政策の関係図

計画における現状認識

- 社会経済環境の変化の認識と的確な対応
- 分権の時代における市民と行政の役割
- 川崎の足跡とこれからの歩み

まちづくりの基本目標

- 川崎の特徴や長所を活かし、持続型社会の実現に貢献する
- 協働と協調をもとに、いきいきとすこやかに暮らせるまちをつくる
- 自治と分権を進め、愛着と誇りを共有できるまちをつくる

政策に反映すべき基本的視点

新たな時代にふさわしい価値観の創造と先駆的な取組を進める

地球社会の構成員として川崎が主体的で責任ある活動を進めるとともに、持続型社会の中でいきいきと暮らすためのよりどころとなる施策を展開する

首都圏の好位置にある川崎としての個性を活かす

首都圏の好位置にある川崎のポテンシャルや幅広い地域資源を活かしながら、広域的・総合的な視点に基づく施策を展開する

相互信頼に基づき自立と自己決定を尊重する

市民と行政との相互信頼に基づいてパートナーシップを構築するとともに、自立と自己決定を尊重しながら、それぞれの役割を適切に担う施策を展開する

市民が実感できる効果的な政策を経営的視点に立って創造する

市民が効果を実感できるように、多様な事業主体や手法を適切に選択しながら、きめ細やかな施策を展開する

６．地域の魅力が輝く自治と風格のまちづくり　における課題の抽出

①音楽のまちづくり

・多様な音楽の可能性の発掘（多摩川音頭のロック踊りなど）
・クラッシックだけではない若者の音楽活動の場づくり
・何を具体的に進めていけば「音楽のまち」になるのか（どう進めるかプロセスを明確に）
・市民団体が企画・運営していく方策はあるのか　・市民クラブと小中学校の交流
・子ども、市民参加のコンサート、レッスン

②文化、芸術

・アートフリーマーケットの開催（若い人が自分の作品を）
・すでにある市民ミュージアム、岡本美術館など文化施設の利用を促進するために、市民による運営組織の活性化をめざす
・地域の文化財として、溝口駅近くの岡家跡地の庭と門を保存し、「まちの庭」のような利用を進める
・文化→根っこが生えているもの　川崎の文化は？　これから文化を作るには？
・多文化レストラン（世界の食文化を味わえる町に）
・ミューザの予定、プログラムを周知する　・一点主義を止める　余暇創造型地域社会
・川崎市は外国人多住地域である　地域に住んでいる外国人の母文化を活用、活かして多様な文化
・音楽のまちに活かせる←目に見えない文化の活用
・小中学校の市民クラブ活動の場として活用（少人数学校の統合による空教室）
・既存施設の活性化（美術館コンサート、民家園コンサート）

③スポーツ

・ムニシパル（公営）を生かしたスポーツ施設を大切にする　・ボール遊びのできる原っぱづくり
・フロンターレを市民で応援する　・若者向きのスポーツ施設整備
・各区にスポーツ施設を
・リハビリ型スポーツ活動

④多摩川を活かしたまちづくり

・鶴見川水系も忘れないで！
・渡し場の復活　・小さな川を大切に
・水を活かしたまちづくり　・屋形船の復活　・動く居酒屋
・水の浄化を考えよう（泳げる多摩川）
・桜並木、アクセス　・先ずホームレス対策から
・市民のキャンプ地を作る
・多摩川だけでなく、多摩川は生みの母、二ケ領用水は育ての母、多摩丘陵は歴史の丘陵、そして江戸湾（東京湾）は豊穣の海だったーその川と用水と丘と海を！

⑤観光　等

・臨海部を観光地点とする（遊覧船等）
・コミュニティバスの普及→観光バスとしてＰＲ
・市民参加型観光ドラマ、川崎版「冬のソナタ」の作成とネット配信
・歴史文化を保全し、日帰り観光施設として活用しよう
・脱観光思想

その他

・都市計画マスタープラン区民提案の位置づけ（地域ごとの魅力づくり）
・区内の分割自治区の創設
・市民アカデミーは地域の誇り、有効的で持続可能な施策を

基本政策の実現に向けて

- **新たな時代を切り拓く川崎再生に向けた行財政システムの再構築**
- **地域経営、自治体経営の観点からの取組**

中間報告における基本目標と基本政策の関係図

計画における現状認識

- 社会経済環境の変化の認識と的確な対応
- 分権の時代における市民と行政の役割
- 川崎の足跡とこれからの歩み

まちづくりの基本目標

- 川崎の特徴や長所を活かし、持続型社会の実現に貢献する
- 協働と協調をもとに、いきいきとすこやかに暮らせるまちをつくる
- 自治と分権を進め、愛着と誇りを共有できるまちをつくる

政策に反映すべき基本的視点

新たな時代にふさわしい価値観の創造と先駆的な取組を進める

地球社会の構成員として川崎が主体的で責任ある活動を進めるとともに、持続型社会の中でいきいきと暮らすためのよりどころとなる施策を展開する

首都圏の好位置にある川崎としての個性を活かす

首都圏の好位置にある川崎のポテンシャルや幅広い地域資源を活かしながら、広域的・総合的な視点に基づく施策を展開する

相互信頼に基づき自立と自己決定を尊重する

市民と行政との相互信頼に基づいてパートナーシップを構築するとともに、自立と自己決定を尊重しながら、それぞれの役割を適切に担う施策を展開する

市民が実感できる効果的な政策を経営的視点に立って創造する

市民が効果を実感できるように、多様な事業主体や手法を適切に選択しながら、きめ細やかな施策を展開する

７．自治　における課題の抽出

①地域を支える市民活動の推進

・市民活動の拠点の不足
・ＮＰＯへの支援
・分権時代の協同を担うべく、市民が学習する機会と場づくりを
・区づくり予算をつくるとき、市民活動団体も予算を要求できる
・市民館など地域の行政関連施設のネットワーク化をはかる（市民が使いやすいように）

②市民自治を拡充するしくみづくり

・（市民参加の）まちづくり条例の制定
・第３の分権化、内なる分権（市→区、区→市民）
・市民が自分たちで決めることができるための十分な時間を！！単年度単発イベント的でなく、じっくりゆっくり継続して必要ならいつでも修正して
・区単位で地域的取り組む、住民意見の提案を受け取るシステムの構築
・区長公選、区議会開設の取組は進んでいるか
・まちづくり条例の制定
・まちづくりのための行政と市民との協働の仕組みづくり

③情報公開、情報提供（→<u>情報共有</u>）

・情報の分散。特に子ども関係
・分りやすく説明を受けられる仕組み

④区を中心とした地域課題解決のしくみづくり　等

・地域課題を市民が提起できる仕組み（予算へ）
・自分達でできることを公開する→ボランティアとしてだけではなく、市の仕事を市民がする仕組み→市民は無料、ただではない
・住民の声が十分に政策に反映されるための議論の場が必要

その他

・自分達の力で自分達の問題を解決できること
・寄付文化（市民間の自助・共助の基盤）

基本政策の実現に向けて

- **新たな時代を切り拓く川崎再生に向けた行財政システムの再構築**
- **地域経営、自治体経営の観点からの取組**